

人見氏館跡(深谷市)

築城年代: 平安時代末期、築城者: 人見政経

ひとみしやかたあと

カーブミラーの左横に人見氏館跡の行先案内があった/人見館跡へはこの上越新幹線の高架を潜って更に進むようだ



その前に、この左手は仙元山公園で浅間神社や昌福寺がある



浅間神社



浅間神社の鳥居



少し右手に進むと昌福寺/ここには深谷城を築いた上杉房憲はじめ上杉氏累代の墓所があるようだ



仁王門





鐘楼



本堂





説明板が立っている



昌福寺

禅宗曹洞宗、人見山といひます。康正二年（一四五六）上杉右馬助房憲が古河公方に対抗するため深谷城に移つたとき、仙元山を背景に昌福寺を開き、山頂に富士浅間神社を勧請しました。開山は漱怒全芳禅師で永正十五年（一五一八）に亡くなりました。本堂左手に房憲と憲盛の墓がかります。江戸期の慶安四年（一六四八）幕府から寺領二十石を下付けました。本堂裏に自然の立地条件をたくみに取り入れた室町時代と推定される禅宗庭園があります。文化財に前記の房憲・憲盛の墓のほか、最後の城主久慈の寄進状、鰐口釈迦三尊像、漱怒全芳大和尚像などが市指定となっています。

昭和五十七年三月 深谷上杉顕彰会



こんなものもあった



さて、本堂の裏手は仙元山公園/本堂左手に上杉氏累代の墓所があるようだ



ここが上杉氏累代の墓所/標柱に「深谷城主上杉房憲公並累代之墓」とある/深谷市指定文化財





中央の宝篋印塔が上杉房憲の供養塔であろうか



上から見る



室町時代造営と推定される禅宗庭園/標柱に「深谷市指定文化財 昌福寺庭園」とある





さて、この道路の前方右手の木々の一帯が人見館跡らしい



ここを右手に入っていく/この正面の木々の中にも土塁が残っているという



この辺りは東の郭のエリアである





中を覗くとそれらしき高まりがある



少し進むと道に沿って左手に土塁の高まりが見えてきた/左端に説明板がある



左手(南方向)を見る



左手が館跡となる



館は東西に並ぶ三つの郭(東の郭、西の郭とそれらの繋ぎの郭)から成っていたという

人見館跡

埼玉県指定史跡
昭和九年三月三十一日指定

人見館は、平安時代末期に、人見氏の館として築かれたと伝えられます。人見氏は、武蔵七党の一つ、猪俣党に属する河勾政経が、この地に住んで人見六郎と名乗ったのにはじまります。その子孫は鎌倉幕府の御家人として活躍しましたが、室町時代の始め頃、人見氏は丹波国に移りました。

室町時代の中頃には、深谷上杉氏の一族の上杉憲武が、人見氏の館跡を改修して居住しました。現在見られる堀や土塁は、この時の姿をとめているものと思われます。憲武のその後の動向はよくわかっていません。

昭和初期の実測図を見ると、館は東西に並ぶ三つの郭から成っていたと考えられ、その範囲は東西約三〇〇メートル、南北約一五〇メートルです。現在はいちばん西の郭が最もよく保存されており、西側と北側に二重の土塁と空堀が残されています。

周辺には「政所」「元屋敷」「馬場」などの館に関連すると思われる地名があります。また、館跡の南約五〇〇メートルにある一乗寺には、人見氏の累代の墓があります。

平成六年三月

埼玉県教育委員会
深谷市教育委員会



埼玉懸史(昭和8年)より

前方は西の郭の北側の二重土塁と堀跡



二重土塁と空堀が見てとれる



その先はこんな感じ



さて、この道を進もう/左手は道に沿った北側の土塁、右手は小川と水田(湿地帯)で自然の要害となっている



土塁を見ると向こう側が空堀となっており、その向こうにももう一つ土塁がある(二重土塁になっている)



手前と向こう側にも土塁がある



振り返って見る/道(左手)に沿った土塁と空堀の右手にもう一つ土塁が並行している



堀底に下りて見たところ



道に沿って見たところ



右手を見る/外側の土塁



外側の土塁から中を見る



これは道を進んで館跡の北西隅から、北側の土塁が折れて南方向へ延びているところを見た様子



そのまま二重土罌が周りこんでいるのが見てとれる



堀底へ下りて見たところ



こちらは内側の土塁越しに館内を北側から南方向に見たところ



右手を見ると空堀と外側の土塁が見える



北側の土塁に沿って館内を西側から東方向に見たところ



アップで見る



北側の土塁の中を覗きこんだところ



さて、これは西側の土塁を南西側から見たところ



土塁の南西隅/西側から東方向に見たところ



アップで見る



土塁上部を見上げる



南西隅の土塁上から北方向を見る



右手を見る



二重土塁になっているのが見てとれる



これは館内の南西隅から北東方向に館内(西の郭)全体を見たところ



西側の土塁に沿って北方向を見たところ



南側の土塁に沿ってきた東方向を見たところ



南側から遠景で正面に館跡(西の郭)全体を見る



こちらは南東側から遠景で正面に館跡(西の郭)全体を見たところ



アップで見ると西側の土塁が見える



これは北側から遠景で正面に最初の説明板が立っていたところを見た様子/道の右手が西の郭エリア/左手は東の郭方向



これが左手を見たところで、こちらが東の郭エリア



これは右手を見たところで前方が西の郭エリア



さて、ここは近くにある一乗寺で人見氏の菩提寺という



一乗寺の文化財

深谷市大字人見二六三番地二

一乗寺は、時宗の寺で、泰因山人見院(乗寺といふ)本尊は阿弥陀三尊立像です。正応二年(西暦二八九年) 人見四郎泰因の開基で、一遍上人の開山といわれています。鎌倉時代、人見を中心として広大な荘園を領有していた人見氏の菩提寺です。

市指定記念物(史跡)

人見氏累代の墓

五基

昭和三十五年十一月三日指定

人見氏は、武蔵七党の一つ、猪俣党より出て、河勾政基の子政経がここに住んで、人見六郎と名乗ったのに始まります。境内に、棕の太木を背にして並ぶ三基の五輪塔と三基の板碑が、人見氏累代の墓といわれるものです。

市指定有形文化財(考古資料)

板碑

一基

昭和四十年十一月三日指定

石材は緑泥片岩、高さ二〇センチ、幅三二センチの青石塔婆です。

天蓋の下に、南無阿弥陀佛の六字名号が力強い篆研ぼりで彫られています。建立年の永和二年は四年(西暦一三七八年)のことです。

昭和五十八年三月

深谷市教育委員会

本堂



標柱に「深谷市指定文化財 人見氏累代墓」とある



これが人見氏累代の墓/五基(三基の五輪塔と二基の板碑)/右から二番目の板碑が考古資料にもなっているようだ



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/108hitomi/hitomi.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/hukayasi.htm>

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/hitomi/index.html

http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post_622.html

<http://www.geocities.jp/boatfisherman832/page056.html>

<http://www42.tok2.com/home/hakubutukan/musashi/hitomi.html>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s5/hitomi.htm>

http://outdoor.geocities.jp/kojyo_annai/3_kanto/9_saitama/hitomi_kan.html

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/hitomisi-yakata.html>

<http://atenzasports23z.blog.so-net.ne.jp/2009-09-27>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/06_ohsato/002_fukaya/fukaya.html#hitomi

